

# 令和6年度 中学校教育研究会 あさひのラーニング 授業の様子

単元名・学年	探究の「問い」を見いだそう・1年		
授業学級	【第2時】1年E組(41名) 【第4時】1年C組(40名)	授業者	堀内 直人 池田 遼
キーワード	#リサーチクエスト #問題発見・解決能力 #課題研究メソッド		

## 【第2時の様子】

生徒たちは共通のテーマ「フードロス」について、前時に立てた最初の問いから次の問いを立てるために、「問いの種類」を参考に、探究の問いをリサーチクエストへと近付けるためのクエストマッピングに取り組みました。

問いの種類「どこ？」に着目して最初の問いを立てたA生は、フードロスの6割が家庭や学校などで起こっていることをWebサイトでの調査を通して知りました。そこから、「なぜ？」の視点から家庭や学校でのフードロスの原因を調査し、そのうち4割が食べられるのに捨てられる実態を知り、なぜ人々は食べられるものを捨ててしまうのか調査しました。その上で、学校で探究を行うために、「なぜ学校では食べ残しを捨ててしまうのか」と、調査対象を「日本」から「学校」へと絞る姿がありました。

全体追究を通して上記生徒の追究の様子を知ったB生は、余った食品を再利用する場所として「学校」へと対象を絞る姿がありました。さらには、問いの種類「今までは？」に着目して余った食品の再利用の事例を調査し、「どのように？」の視点から「学校で余った食品を肥料や家畜の餌にすることはできないだろうか？」と調査内容を具体化し、問いをリサーチクエストへと近付ける姿がありました。

今後は、本時に立てた探究の問いがリサーチクエストとして妥当かどうか、検証していきます。共通のテーマでクエストマッピングを行った生徒が、自分の興味関心のあるテーマについてリサーチクエストを見いだすことができるのでしょうか!?

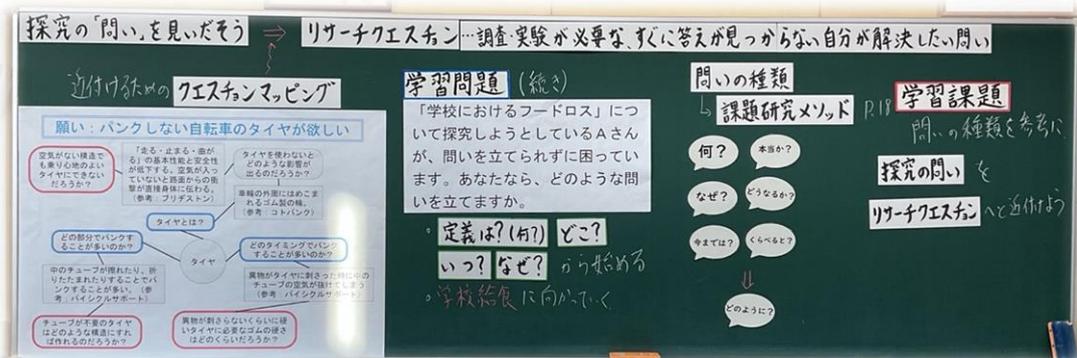


個人追究の様子

全体追究の様子

友と意見交換する様子

本時の学習カード



第2時の板書

## 【第4時の様子】

第3時までの学習を通して、生徒たちは「次は自分の興味・関心のあるテーマを追究してみたい。」という願いをもちました。本時は、これまでの学習を振り返りながらクエスチョンマッピングを広げたり、友と検討し合ったりすることを通して、自分の願いをリサーチクエスチョンへと近付けました。

「移動時間もその地域の特色を楽しみたい。」という願いをもったC生は、キーワードを「移動時間」と据え、クエスチョンマッピングを行いました。問いの種類を確認しながら、「目的地以外の場所で楽しむにはどうしたらいいのか？」や「どのタイミングならその地域の特色を楽しめるのか？」という問いを設定し、参考資料から調査したり問いを更新したりすることを通して、現状のリサーチクエスチョンを『何分止まる時間があれば、その地域ならではの特色を楽しむことができるのか。』としました。続いてC生は、立てた問いがリサーチクエスチョンとして妥当か、「①調べればすぐにわかる『問い』になっていないか。」と「②リサーチクエスチョンに具体性があるか。」という観点で友と検討し合いました。①では、「実際に行ってみないとわからないから妥当だ。」というコメントを、②では、「何が止まる時間か、具体性があるとよくなりそう。」というコメントを参考にして自分の問いを見直すことで、最終的に『車や新幹線が何分止まっていると、その地域ならではの特色を楽しむことができるのだろうか。』という問いへと更新する姿がありました。

D生は授業の終末で、「探究の問いを立てる際には、簡単な問いから問いを更新しながら自分の調べたいことに近付けていくことが大切だと感じた。今回学んだことを他の教科に生かしたい。」と振り返りました。この単元を通して探究の問いの立て方を学んだ生徒たちが、今後の教科やあさひのラーニングの学びにどのようにつなげていくかが楽しみです。



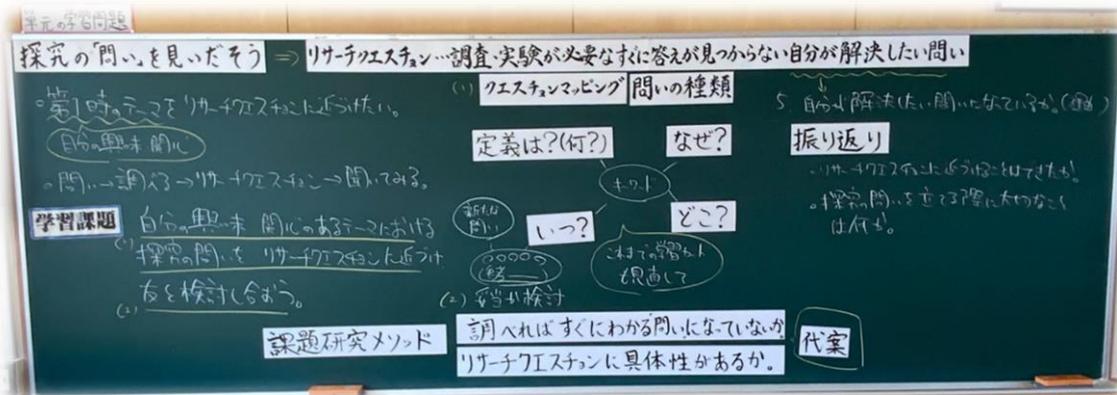
個人追究の様子



友と意見交換する様子



授業後の生徒との交流会



第4時の板書

### 【懇談会の様子】

授業後の懇談会では、単元展開の仕方や、この単元で授業をするならどの時期が適切かという話題があがりました。授業者としては、中学校1学年のはじめに位置付けることで、学びの深め方を知るきっかけになるのではないかと考えています。また、右の写真のように、参加者の交流も熱心に行われ、探究への関心の高さが伝わってきました。

